

下川町 バイオマスタウン構想

北海道下川町(しもかわちょう)
構想公表:平成20年3月3日(第24回公表)

北海道下川町の概要

人口 : 3,678人(平成23年5月現在)
総面積 : 644.20km²

世帯数 : 1,844世帯(平成23年5月現在)
地理 : 北海道北部に位置する町。

本構想の概要

地域の基本財産である森林を活かし環境に配慮したまちづくりを推進するため、林地残材や木質系資源作物などの木質バイオマスを、燃料として公共施設等の暖房や給湯に活用し、温室効果ガスの排出削減や循環型社会の構築を目指す。更に、廃食油の燃料化も推進する。

利活用目標

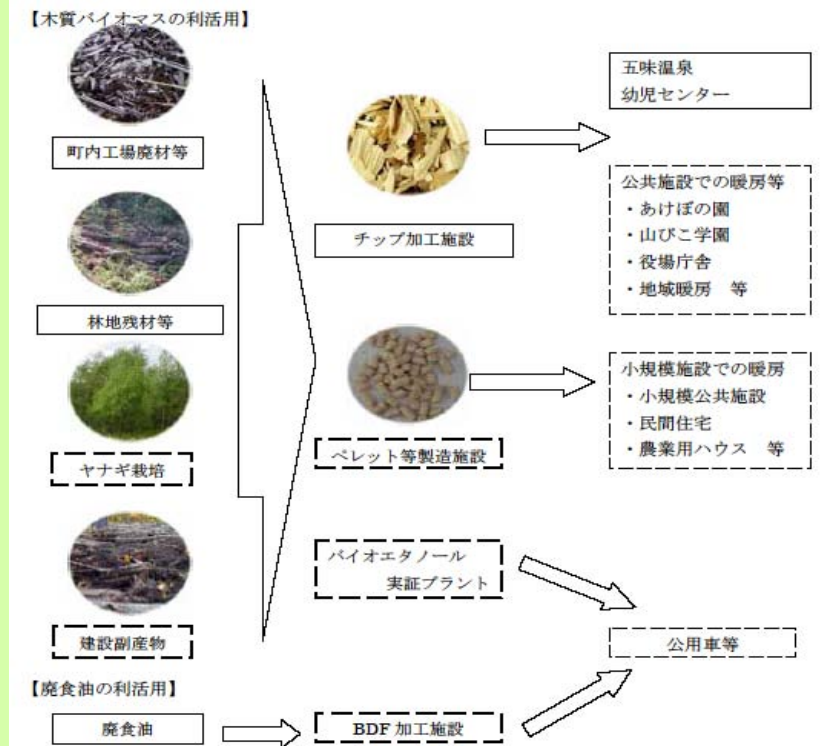
- 廃棄物系バイオマス : 99%
- 未利用バイオマス : 40%

代表施設

五味温泉(木質バイオマスボイラー)



● 公共の温泉施設に木質バイオマスボイラーを導入したほか、農業用ハウスへのペレットボイラー導入実証試験、集成材工場への木質蒸気ボイラーの導入等の取組を進めている



下川町バイオマスタウン構想におけるバイオマス利活用フロー図

真庭市バイオスタウン構想

岡山県真庭市(まにわし)
構想改訂:平成21年2月27日(第33回公表)

岡山県真庭市の概要

人口 : 50,514人(平成23年6月現在) 世帯数 : 17,698世帯(平成23年6月現在)
総面積 : 828.43km² 地理 : 岡山県北部、中国山地のほぼ中央に位置する市。

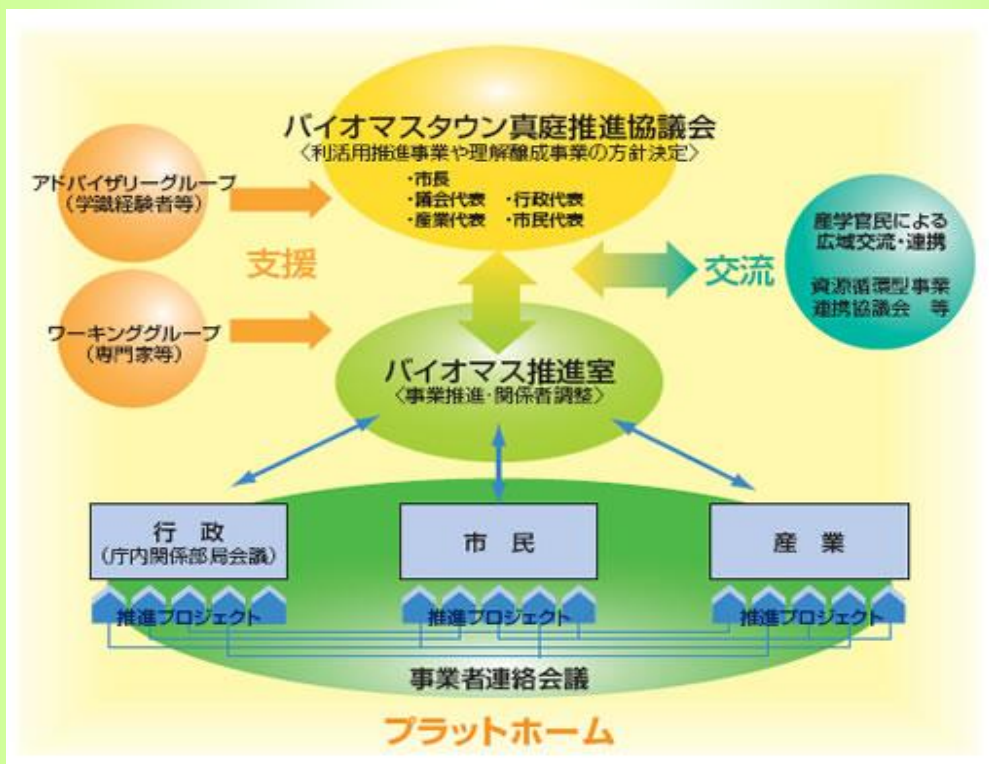
本構想の概要

木質系廃材、家畜排泄物および食品廃棄物の廃棄物系バイオマスと未利用木材の未利用バイオマスを主たる対象とし、個々のバイオマスの「収集 変換 利用」の仕組みを体系的に整備し、利用率を高めることにより、廃棄物系バイオマスの目標利用率90%以上を目指す。

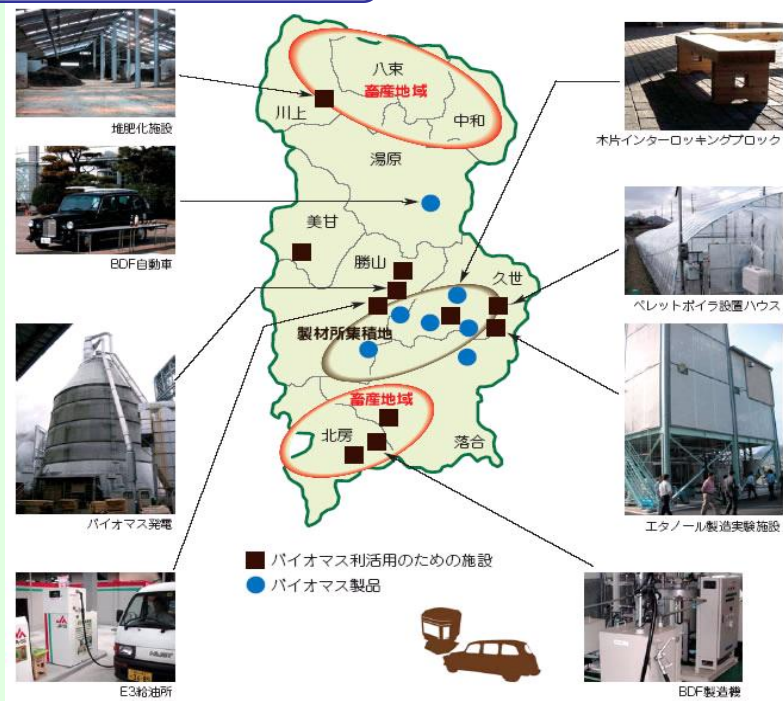
利活用目標

- 廃棄物系バイオマス : 90%
- 未利用バイオマス : 40%

代表施設



真庭市バイオスタウン構想におけるバイオマス推進体制



真庭市におけるバイオマスの取組

日田市バイオスタウン構想

大分県日田市(ひたし)
構想公表:平成17年6月13日(第3回公表時)

大分県日田市の概要

人口 : 71,750人(平成23年5月現在) 世帯数 : 26,788世帯(平成23年5月現在)
総面積 : 666.19km² 地理 : 大分県西部、福岡県・熊本県との県境に位置する市。

本構想の概要

豊富なバイオマス資源を背景に循環型社会の構築を目指す。特に、豚糞尿、生ゴミ、農集排汚泥をメタン発酵処理する施設をバイオマス利活用の推進を図る中核施設と位置づけ推進する。

利活用目標

- 廃棄物系バイオマス : 95%
- 未利用バイオマス : 40%

代表施設

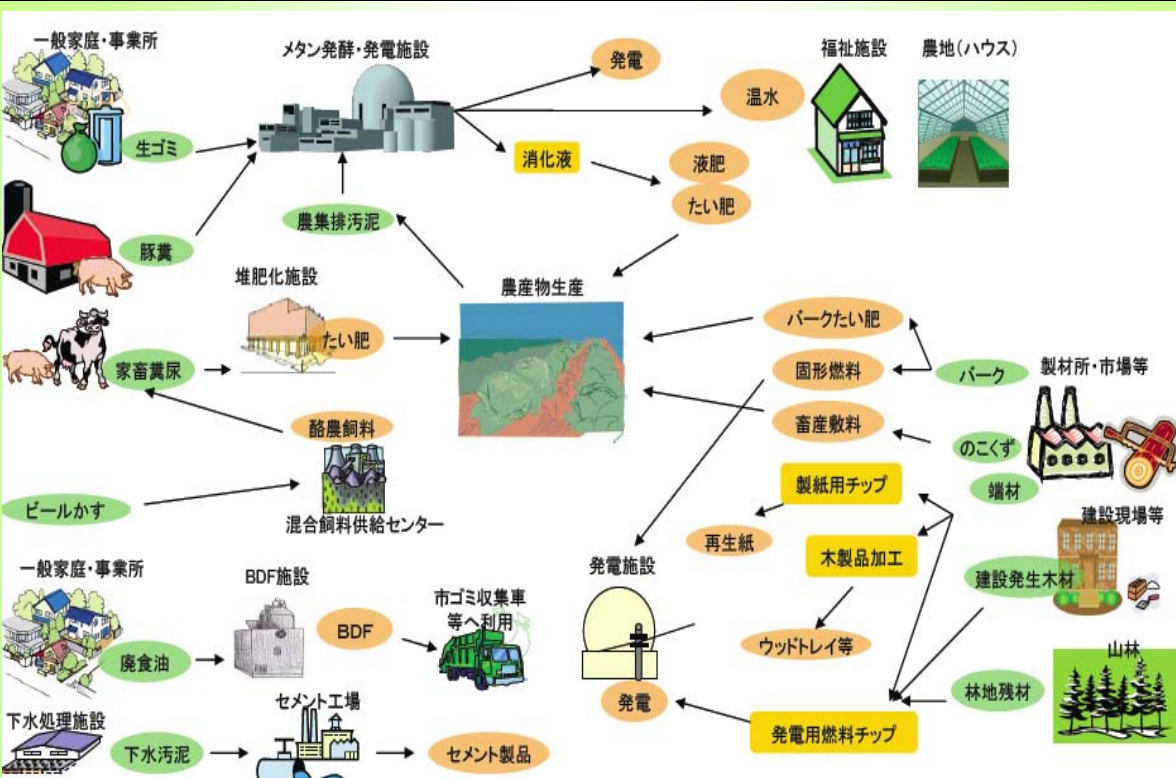
日田市バイオマス資源化センター



バイオマス利活用量 15,000t/年(H18 予定)
国費 459百万円

〔事業名:バイオマス利活用フロンティア整備事業
バイオマスの環づくり交付金〕

- 食品残さ(24t/日)、家畜排せつ物(50t/日)及び汚泥(6t/日)を受け入れ、たい肥化、液肥化。
- 処理過程で得られるメタンガスを利用し、発電。



日田市バイオスタウン構想におけるバイオマス利活用フロー図